

3月定例会



平成29年3月定例会が、2月24日に招集され、3月10日までの15日間の会期で開かれました。

今定例会では、市長の施政方針演説及び教育長の教育行政推進基本方針演説がありました。また、一般質問に8人の議員が登壇し、市政を問いました。

提案された条例11件、平成29年度一般会計予算ほか14件、その他6件の全32議案を原案のとおり承認、可決しました。

今定例会の最終日では、人事案件4件が追加提案された他、議員発議による意見書2件を可決しました。

請願

◆請願第1号

中山間地域における農業経営支援に関する請願

【請願者】 遠野市認定農業者協議会 会長 佐々木 準光

〔採択〕

手を支えるため、担い手の経営支援としての日本型直接支払制度の交付単価アップ、収入減少緩和対策、認定農業者や営農組合への支援などを求める。

議員発議

今定例会では、2件の議員発議案（意見書2件）が提出されました。

意見書

◆発議案第1号

中山間地域における農業経営支援に関する意見書

当市に多く見られる中山間地域では、水田の大規模化が困難で、国の進める農業経営所得安定対策等による支援を十分に受けることができない。

国に対して、中山間地域の水田農業の担い

◆発議案第2号
過疎地域の追加と過疎対策事業債の対象事業の拡充を求める意見書

平成27年国勢調査の結果がまとまり、調査開始以来、初めて人口減少が明らかになった。過疎地域の財政状況が厳しさを増し、過疎対策事業債の需要が大きくなることから、国勢調査に基づく過疎地域の指定にあたっては、平成22年度及び平成26年度改正と同様に現行市町村に追加して指定することと、過疎対策事業債の対象事業を拡充することを強く求める。

道の駅魅力アップ事業費の予算等を審議・可決

予算等審査特別委員会の審議では、特に次のことについて議論されました。

遠野市民センター条例等の一部を改正する

は、使用料等の見直しの根拠、他自治体の施設との整合性、「子育てするなら遠野」を標榜する遠野市としての姿勢が議論されました。

審議において、議会としての認識の整理が必要との判断から、予算等審査特別委員会の審議を一時中断し、議員問討議を行いました。

討議の結果、児童生徒に配慮した使用料等の設定、市民の使用料等と市外から訪れる利用者との区別などを適正化することを議会として要望す

ることとし、引き続き議会のチェック機能を果たしていくことが確認され、委員会の審議が再開されました。

市当局は、「基本的には利用者負担の原則に基づくもので、重要施策へ配慮し議論を尽くして最善の形で提案した。様々な角度からの貴重な意見を重く受け止め、次の改定には改善に向けて検討を加える」と答弁しました。

議案第25号の遠野市一般会計予算では、道の駅「遠野風の丘」の魅力アップ事業について、交通網が整備される中での改修の目的、より整備の効果の上がる産業振興、防災機能について活発に議論されました。

このことについて、

最終日の本会議では、反対・賛成それぞれの立場から討論が行われました。（討論の内容は次のとおりです。）

議案第25号

反対討論

菊池 充 議員

風の丘機能充実整備予算については、平成27年9月定例会において、遠野インター開通後の利用実態や車両の停滞状況の調査をした上で対応すべきという理由から反対した経緯がある。

今回提案された道の駅魅力アップ事業は、遠野インター開通後の利用者が減少しているという実態が明らかとなったにも関わらず、事業計画を急ぐこと

や、新たに防災機能の施設を整備する等、その必要性や緊急性についての説明責任を果たしていない。

今後、本計画は平成30年からの3年間で総額10億7300万円ほどの事業費を見込んでいるが、平成30年度開通予定の遠野住田インター開通後の交通量や利用実態を調査した上で、実施の有無についての方向性を出すべきであることから反対する。

賛成討論

瀧本 孝一 議員

今後の道路網の整備完了後における交通量の変動、観光客の推移などを見極めてからという慎重意見も大事なことが、人口減少、

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	14	15	16	17
議員氏名	小林 立栄	菊池 美也	萩野 幸弘	瀧本 孝一	多田 勉	菊池 由紀夫	佐々木三郎	菊池 巳喜男	照井 文雄	荒川 栄悦	菊池 充	瀧澤 征幸	細川 幸男	浅沼 幸雄	多田 誠一	安部 重幸
議案第25号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○

※議長は採決に加わりません。○は賛成、●は反対。 ※全員賛成、または全員反対以外は、賛否の内訳を表記します。

賛否の公表